

カルカロドン メガロドンの化石

～約1,000万年前の地層から発見された巨大なサメ～

1 個体分の歯が^{ふかや}埼玉県深谷市の^{あらかしやう}荒川河床から発見されました。



カルカロドン メガロドンの歯の復元



カルカロドンメガロドンの歯化石



埼玉県立自然の博物館入口にある「日本地質学^{はつしやう}発祥^{ひつきやう}の地」の碑

太古の巨大ザメ “カルカロドン メガロドン”

カルカロドン メガロドンは、現生のホオジロザメの祖先ともいわれ、最大体長は約13mに達したと推定される肉食魚です。

1986（昭和61）年春、このサメの歯化石が、^{ひきらんざん}比企郡嵐山町在住の関根浩史氏により、^{ふかや}深谷市（旧大里郡川本町）の荒川河床に分布する約1000万年前の地層（^{ひき}比企層群土塩層）から発見されました。

1 個体分の歯がほとんどそろっていたため、歯の位置関係（歯列）や体長が推定されました。

埼玉県立博物館では、この発見により採集された実物標本と、アゴの復元模型を展示しています。また、復元の際に参考にしたホオジロサメのアゴや、復元の根拠^{こんきよ}とした比較データ^{ひかく}も併せて紹介しています。

▶ 新第三紀の森 ―平方の植物化石―

深谷市北部は利根川水系の低地で、南部は秩父山地から流れ出た荒川が扇状地を形成する平坦な地形をしています。また、荒川河床は、比企層群土塩層・楊井層が分布し、海成層から陸生層へと連続した地層の変化を観察できる重要な場所です。

例えば、約900万年前の楊井層には、河口付近の網状河川の堆積物がみられ、メタセコイアをはじめとする陸の植物化石が多産します。土塩層とその上に重なる楊井層は、まさに海から陸への変遷を語ってくれます。サイの頭骨化石の産出から、日本の島が陸続きであったこともうかがえます。



平方の化石林を構成する植物化石群

▶ 第四紀の古生物 ―深谷にゾウがいた頃―

氷河時代とも称される第四紀は、長鼻類（ゾウ類）の進化をたどることができる時代です。

今から約50万年前、秩父山地から流出した荒川は、寄居町を扇頂として広大な扇状地を形づくりしました。自然環境の変化に伴いこの扇状地は、河川に削られ、いくつもの河岸段丘を刻みました。

約10万年前に生息したナウマンゾウの臼歯の化石が、この段丘堆積物中から発見されています。写真は、深谷市折之口で井戸の掘削中に発見された臼歯（右上顎第3大臼歯）です。



ナウマンゾウ臼歯化石

コ ラ ム 埼玉県立自然の博物館

埼玉県立自然の博物館は、埼玉の自然や人のくらしと自然との関わりを多面的・総合的に扱い、県民に自然と人との共生について考えるための情報を提供する「自然と人との共生を創出する自然系総合博物館」として設置されました。

前身は、1981（昭和56）年11月10日に開館した埼玉県立自然史博物館です。さらに、秩父鉄道株式会社が設立した「鑛物植物標本陳列所」（1921（大正10）年開設）および「秩父自然科学博物館」（1949（昭和24）年開設）の伝統と資料を受け継いでいます。

埼玉の自然史への導入として、埼玉県内で発見された巨大ザメ“カルカロドン メガロドン”、海獣“パレオパラドキシア”の化石を展示するオリエンテーションホールをはじめ、埼玉県でみられる岩石・鉱物・化石・地層などを年代順に展示し、埼玉の“大地の成り立ち”と“その生いたち”を紹介する地学展示ホール、埼玉を代表する森林と、そこにすむ動物の姿を、高さ8mの大ジオラマで紹介する生物展示ホールといった常設展示の他、企画展示やイベントも行っています。

アクセス

埼玉県立自然の博物館

交通：秩父鉄道上長瀬駅から、徒歩約5分、長瀬駅から、徒歩約15分、長瀬駅から岩畳経由で、徒歩約30分

住所：埼玉県秩父郡長瀬町長瀬1417-1



埼玉県立自然の博物館